

平成 24 年度 ベトナム国国別研修「社会経済開発政策策定能力強化(都市計画)」
- Capacity Development Program to Formulate Socioeconomic Development Policy (City Planning)

研修期間:平成 25 年 3 月 4 日～3 月 12 日 (9 日間)

研修場所:神戸市内

研修内容:ベトナム国における、道路計画・港湾・
防災・水インフラ・電力・人材育成等さ
まざまな要素を含んだ都市計画の策定方
法習得に関する講義/視察

参加研修員:ベトナム国より 14 名(中央省庁ならびに
地方省幹部職員)



研修最終日:閉講式にて



当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)からの委託を受け、ベトナム国国別研修「社会経済開発政策策定能力強化(都市計画)」を実施しました。

本研修は、神戸市における都市計画を道路計画や港湾整備、防災、水インフラなど様々な観点から紹介し、包括的な都市計画の策定ノウハウを研修員に学んでいただく事を目的としています。延べ9日間にわたった本研修は全行程を神戸市内で行いました。初日は基調講演として、時代に
応じた神戸市の都市戦略に関する講義を、戦災復興計画や5次にわたるマスタープランの内容説明を中心に行いました。その後は、ダイオキシンを排出しない方法でゴミ処理を行う東クリーン
センターや下水汚泥をバイオガス化して活用する事業を行う東灘下水処理場などの施設訪問をは
じめ、神戸市が山・海を開発して行った都市計画事例紹介として、神戸港や西神南住宅団地・工
業団地への訪問視察などを行いました。

また研修中には神戸市長へも表敬訪問し、両国間の更なる交流と友好についての挨拶をいただき
ました。



～研修を振り返って～

日本をはじめとする諸外国からの関心も高く、投資や開発によって都市化が進むベトナム。ハ
ノイ・ホーチミンの2大都市で急激な都市化が進む一方で、発展
に伴う交通・下水等のインフラ未整備や地方から都市部への人口
流入、工業化に伴う環境対策など、その背景には多くの課題があ
るといいます。今回、神戸市の都市計画を学びに来た研修員 14
名は、ベトナム中央省ならびに地方省の幹部職員でした。短い研
修でしたが、限られた時間の中で自国の為にできる限りの内容
を学び持ち帰ろうとする意欲的な研修参加姿勢はとても印象的
でした。

ベトナムでは、工業化に伴う汚水垂れ流しやそれによる水質汚
濁が深刻化しており、水環境の改善が緊急の課題とされています。

そのような問題への解決案提示として、研修では神戸市における



東灘下水処理場の視察

都市環境維持のための下水道インフラ事業を紹介し、東灘下水処理場を訪問しました。この処理場で行われる「こうべバイオガス事業」では、市内の下水処理場で発生する消化ガスを主原料としてバイオガスを精製し、自動車用燃料や都市ガスとして活用する取り組みを行っています。また、2012年7月からは「KOBE グリーン・スイーツプロジェクト」¹と称し、地元神戸の食品会社から生じる食品かすを汚泥に混ぜて収量を増やして都市ガスを生産するという、魅



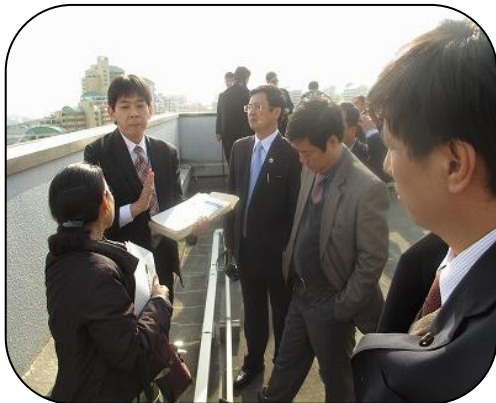
バイオガスで走るバスにも試乗しました!

力的な食グルメ溢れる街・神戸ならではの事業も開始し

ました。環境へも配慮した市の取り組み紹介や実際の処理施設の見学においては、研修員から終始感嘆の声があがっていました。

開港以来、国際貿易港として発展し、工業地帯を形成してきた神戸港ですが、緑の山々と美しく調和したその港は、観光地としても人気の高いエリアです。「工業化を進めながらも、美しい風景を共存させるには？」研修員は、美しい神戸の海を見ながらもその点に強い関心を抱いていた様子です。海に面し美しい風景を持つベトナムは現在、その港湾エリアの一部で工業団地の開発も進んでいます。団地への多くの企業進出や経済発展が期待される中で、景観維持は工業化に伴う大きな課題の一つであるとの研修員の声もありました。神戸市の経験・事例が、少しでもベトナムの参考になることを願って止みません。

様々な特色を持つ神戸市の都市計画も、順風満帆に進んだわけではありませんでした。1889年の神戸市誕生から現在に至るまで、神戸市は計5回の基本計画(マスタープラン)を策定しましたが、その都市形成の過程では、第二次世界大戦による戦災や阪神淡路大震災といった2度の甚大な災害に見舞われました。外部から大きな影響を受ける中で、



工業化と景観維持の共存のためには？

柔軟な計画修正や、行政だけではなく住民とも積極的に連携しつつ行った復興まちづくりの力強い歩みが、現在の神戸市の姿を形成したといえます。

縦長で山地の多い地形をはじめ、豊かで多彩な伝統や食文化など、どこか似ているベトナムと日本。日本とベトナムの外交樹立40周年となる本年に、今回の研修を神戸で実施できたことを大変嬉しく思います。今後日本とベトナムが更なる繋がり・交流を含め、そして神戸とのより深いきずなが出来ることを心から願っています。

研修担当：後藤田 路子

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター

講義/視察先：(独)理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター/計算科学研究機構

神戸新交通(株)/神戸港埠頭(株)/(公財)神戸都市問題研究所/神戸港振興協会

神戸市危機管理室/神戸市消防局/神戸市環境局/神戸市都市計画総局/神戸市み

なと総局/神戸市建設局/神戸市企画調整局

【順不同、敬称略】

¹KOBE グリーン・スイーツプロジェクト：神戸市と(株)神鋼環境ソリューションとが合同して行う事業であり、六甲山の間伐材や市内街路樹の剪定枝・東灘区の食品製造企業から生じる食品残滓などを汚泥に混ぜることで収量を増やし、バイオガス発生量を増加させる事を目的としている。



～研修員の声『神戸を訪れて』～
Participant's Voice 『VISIT TO KOBE』

名前：Mr. LE Duc Vinh (レ・ドク・ヴィン)
所属：カインホア省 人民委員会 副委員長
(研修員団長)



短い神戸での滞在でしたが、特に印象に残っていることはありますか？

研修では神戸市の都市計画と都市の発展について学びましたが、神戸市は、時代や社会の情勢に合わせた非常に戦略的な計画をベースに発展を遂げた都市であると感じました。特に交通インフラはよく整備されており、便利でした。街も清潔で美しく、市民が安心安全に暮らすための環境がしっかり整備されており、人々が質の良い暮らしを送られている印象を受けました。

日本は5回目の訪問とのことですが、他都市と比べて神戸の印象はいかがですか？

神戸は都会ですが、人口密度も適切であり、空気もきれいで自然に調和したまちづくりがなされており、どこにいても心が落ち着く街だと思います。阪神淡路大震災の様な大地震からわずか18年でここまで復興されていると知り、驚きました。それには、神戸の方々が元々抱いていた、意志の強さや忍耐強さが大きく関与となり発展を遂げた都市ですが、これからも益々の発展を遂げ、活気あふれる都市となることを願います。その都市計画について今回学んだ内容を、ベトナムでも活かしていきます。



ありがとうございました！ cảm ơn rất nhiều！

